

学会創立七十周年を記念して

中国文化学会会長 高橋 均

わが学会の前身である東京文理科大学漢文学会が一九三二年（昭和七年）に発足して、今年が七十周年にあたる。われわれは、この間、本学会に参加し活動された多くの方々の努力に、感謝をささげたい。

学会の発足には、当時の東京文理科大学漢文学科第一回生が、大きく与っているという。その方々のご健在であることは、何にもまして大きな喜びである。

七十年の間、「学会会報」は六〇号を数え、毎年学会大会、月例会に多くの優れた研究発表を行い、また漢文教育に成果を挙げ得たことは、われわれの誇りである。しかし、この七十年は本学会にとって決して平坦な道ではなかった。第二次大戦による学会活動の停止があり、「会報」の発行号数との差はそれに原因する。それもさることながら、もともと一大学の構成員と卒業生によって維持されてきた本学会は、母体が揺れ動く時その影響を受けざるを得

なかった。一九五三年、東京文理科大学の閉学から東京教育大学の開学、そして一九七八年、東京教育大学の閉学は本学会の存続を危うくする深刻な事態であった。しかし会員の学会を継続させようという強い意思と方途を探る努力によって、大塚漢文学会として発足することができた。そして一九九七年、われわれはさらなる発展を願って中国文学会と名称をあらためた。この間、筑波大学のスタッフには事務処理を含め多くの助力を得ている。

学会には常に新しい力の注入が要求される。われわれの学会がそれに値するのか、そのために何をなすべきか。われわれを取巻く状況は、決して容易ではない。だがわれわれには、困難を解決してきた知恵と力がある。

学会の創立七十周年を迎えるにあたり、先人の本学会に托した意図を思い、学会としていささかの貢献を果たしてゆくことを願って記念とする。